

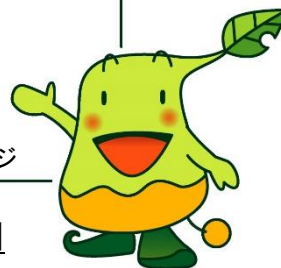


真庭市立川上小学校

学校だより



川小ホームページ



★校長室から No. 18 校長 林 咲子 令和2年12月3日

## チャレンジ・ランニング

11月の中旬の業間休みに、「チャレンジ・ランニング」を実施しました。運動場に大小2つのトラックを描いて、高学年は大きいトラック、低学年は小さいトラックを5分間走ります。走る前と後はウォーキングで呼吸を整えます。

自分が何周走ったか覚えておいて、後でカードに記入し、10周ごとに職員室の先生にごほうびシールをもらいます。たくさん子ども達が60周(カード1枚)走っていました。中には、業間休み以外の時間も走って、2枚目のカードにいった子もいました。

「体力づくり」と「負けない心」で「たくましい川上小学校」に向かってまたレベルアップできました。【この取組は、蒜山地区保学連携推進協議会学校保健部会の提案によるものです。】



## 「心のバリアフリー授業」

11月30日(月)パラリンピックアイススレッジホッケー元日本代表で銀メダリストの上原大祐さんにご来校いただき、お話を聞いたりワークショップをしたりしました。

「失敗と成功は“チャレンジした”からこそ得られる経験」「平等と公平はちがう」「夢はいくつあってもいい、変わってもいい」「“できないこと”じゃなく“できること”を伸ばす」「何がきっかけになるかわからない、経験したことが全部財産になる。そこに、思わぬチャンスや光が隠れているかもしれない。だから、前向き(ポジティブ)に考えよう。」「チームワークとは、“してあげた”から“してあげたい”への意識改革!」など、たくさんのメッセージをいただきました。

そのあと、「パラアスリートになりきって、モノづくりや課題解決の楽しさを感じるワークショップ」をしまし

片手で「のり」のふたを開けるのは、難しい。  
どうしたら、できるようになるか?





足で固定して…?



ふたをスライド式にするとか。

「できない」「困った」は、発明の第一歩。みんなが発明家になれる。

まずは、不便さを体験して、どんなことに困るのか声を出し合い、そして、解決のための知恵を出していきましょう。

## バリアフリー → ユニバーサルデザイン → インクルーシブデザイン

現在、モノづくりでは、企画開発の段階から当事者が加わって進める“インクルーシブデザイン”が増えてきているそうです。健常者が想像してつくるのではなく、実際に困っている人たちの声を直接開発に生かしていくことができます。実際に商品化されているモノも紹介していただきました。

6年生はこの学習を自分たちだけでとどめるのではなく、ほかの学年の人達にも知ってもらいたい!と考へて、現在「何のために、何を、どのようにして伝えるか。」学習を進めています。



また、その日は、中国運輸局岡山運輸支局の方から「多機能トイレ」と「ヘルプマーク」の紹介がありました。

多機能トイレは数が少ないので、本当に使いたい人が使えるよう、譲り合って使ってほしいこと。どんな人が使えるようになっているのかということをお教へていただきました。



ヘルプマークとは障害や疾患などがあることが外見からは分からない人が、支援や配慮を必要としていることを周囲に知らせることができるマークです。ヘルプマークをつけている人に会ったら、「何かお手伝いしましょうか?」とやさしく声を掛けてあげましょう。

## 人権参観日・教育講演会・学級懇談に、多数のご参加ありがとうございました。

12月2日(水)は人権参観日でした。それぞれの学級で、人権をテーマにした授業をしました。

また、教育講演会では、美作大学准教授の津田幸保氏をお迎えして、「子ども達には、なぜ運動が必要なのか」について講演とリズム・ジャンプを体験しました。5・6年生と保護者・職員計70名が参加しました。運動は体づくりと言うけれど、実際は脳の働きをよくしているということも学びました。

今年度は「たくましい川上小学校」をめざしてがんばっています。体力づくりはもとより、集中力や協調性なども培われると言われており、みんなで楽しくリズムに合わせて体を動かしました。できてもできなくても楽しくて笑顔になれて、すっきりとした気持ちになれました。「リズム・ジャンプ」は今後も取り入れていこうと思います。

4年道徳「いじりといじめ」



親子で「リズム・ジャンプ」



**コロナウイルスに負けない! 睡眠・食事・手洗い・マスク!**